３　「思考力」を育成する学習指導の実際

単元　「おはなしを　げきにして　しょうかいしよう－『サラダでげんき』－」（１年）

＜本時育成したい「思考力」＞
登場人物に合う動きや様子を表すことばを選んで，表現を工夫する。

ここでは，上記の「思考力」の育成を目指して行った発展的な学習**「物語に一つの場面を書き加える」**における学習指導レベルの教材と反応の組織化について述べる。

（１）学習指導レベルの教材

「教科書教材に一つの場面を書き加える」

登場人物とその動きをイメージし，自由に自分のことばで表現することは子どもたちにとってとても魅力的である。

また，これまでに出会ったことのある動物の動きの特徴や，その動物に対してもっているイメージを，実際に動いたり話したりしながらことばに置き換えていくことで，「ワニがのそのそやってきた。」「ニワトリがとことこ走ってきた。」等，一人一人の経験を生かした多様な表現が生まれる。

さらに，それらの表現の中から自分の表したいイメージにあったことばを選択したり，その表現がふさわしいかを吟味したりする際には，「動きを表すことばには，登場人物の気持ちが表れている」という教材文の読みで学習したことを基にその整合性を考えていく能力を育成することができる。

（２）子どもの反応の組織化

子どもたちは，これまでに，出てくる登場人物やサラダに入れる材料を決め，教材文から学んだ場面の構成を生かして自作の場面を文章化してきた。

「カンガルーが遠くの山からえらそうにやってきました。」「いもむしが，もぞもぞとやってきました。」「さるが，ターザンみたいに木から木へ飛び移りながらやってきました。」といったように，読みの学習で様子や動きを表すことばのよさを学んだ子どもたちは，自分の文章にもそれらを取り入れていった。

しかし，発表の際，しんどそうにやってきたことを伝えるために「えらそうに」ということばを使ったＡ児に対し，どのような様子を表しているのかイメージできなかった子どもが，「えらそうにってどんなふうにやってきたのですか。」という質問をした。

【意味の共有化】

自分の考えた場面を紹介する際，動作化させることで，どのような様子を表そうとしているのか共有化を図る。

そこで，実際にみんなの前で動いて見せることで「はあはあ息を切らしてやってきた」ことを共通理解することができたのである。

このように，様子を表すことばがどのようなことを意味しているのか分かりにくい場合は，「動作化」という低学年ならではの

活動を通して共有化していった。

「えらそうな」ということばは，動作化によってその意味を共有化することができたが，「でも…」と，その表現に対して十分に納得できないといった表情の子どもがいた。そこで，その子どもに自分が疑問に思っていることを話させた。すると，「えらそうにということばから，ぼくは威張ったようにやってきたのかと思いました。」と，始めに自分が「えらそうに」ということばからイメージした様子について話した。他にも，同じような様子を想像していた子どもたちがいることが明らかになった。

【異同関係の明確化】

「えらそうに」ということばから思い浮かぶ様子について話し合ったり，「えらそうに」ということばを使って短文作りをすることによって，意味することの違いを考える場を設定する。

「えらそう」ということばからどのような様子を思い浮かべるかを話し合った。いろいろなイメージを出し合ううちに，「いばっているような感じがする」「しんどそうな感じがする」「かっこをつけているようだ」「疲れている」と異なるイメージがばらばらに出始めた。

そこで，「仲間分けできないかな」と問いかけることで，大きく分けて「疲れた様子」と「いばった様子」の二つの様子を表していることに気付いていった。その後，自分のイメージしたことがどちらに入るのかを考える場をもった。

さらに，そのことばのもつイメージをより確かにするために，短文作りを行った。「妹は風邪をひいてとてもえらそうだ。」「〇〇君は，二重跳びができるようになったことをえらそうに言った。」と，実際にそのことばを使ってみることで，「えらそう」ということばは違った意味を持っていることを確かめていった。

その後，もう一度，どのような様子を表したかったのかを確かめ，だれが読んでもその様子を思い浮かべることのできる表現に書き直すことにした。

【優劣，整合性の吟味】

カンガルーがやってきたときの様子を，文脈にふさわしい意味として捉えるために，「疲れている」という基準で吟味できるようにする。

「しんどそうにやってきた」「疲れたようにやってきた」と，子どもたちは「えらそうに」に変わることばを考え始めた。そこで，「どうして疲れてるの？」と問うことで，「遠くから来たから」ということばに着目させ，疲れていることがよく分かる表現でなければならないことを確かめていった。

また「りっちゃんのお母さんのために急いできたから」等，教材文から自分たちが読みとったことを基に，疲れている理由を考えた子どももいた。そして，「犬はとびこんできたし，アフリカぞうはせかせかとおりてきたよ。」「その様子が目に浮かぶよ。」「急いでいる感じもよく分かるね。」「もう少し様子が見えるように書いた方がいいんじゃないかな。」「例えば，『はあはあ言いながら』の方が急いできた様子がよく分かるよ。」と，伝えたいことに合った表現を考えていった。その話し合いを基に，A児は「カンガルーが，遠くの山から，はあはあと大きな息をしながらとんできました」と表現を変えた。

この後，子どもたちは自分の考えた場面を見直し，自分の伝えたかった様子や気持ちがうまく伝えられる表現であるかどうかを吟味していった。